

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団	
施 設 名	北九州市立響ホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	30,881	(千円)
	公 演 事 業	25,909 (千円)
	人 材 養 成 事 業	431 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	4,541 (千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	響ホール開館30周年記念 ガラ・コンサート	7月30日	出演：篠崎史紀、南紫音 他19名 演目：モーツァルト：ディヴェルティメント ニ長調 他3曲	目標値	600
		北九州市立響ホール		実績値	647
2	響ホールリサイタルシリーズ(5公演)	6月24日～ 令和6年1月27日	出演：小菅 優、ダニエル・オッテンザマー、上野耕平、石田組、榎本大進 他	目標値	2,600
		北九州市立響ホール		実績値	2,550
3	0才からの音楽会	6月10日、11日	出演：響ホール室内合奏団 他4名 脚本・演出：泊 篤志 演目：おもちゃのチャチャチャ 他	目標値	1,060
		北九州市立響ホール		実績値	1,127
4	0才からの親子で楽しむ クラシックコンサート	12月9日	出演：奥村愛、前田尚徳 他5名 プロデュース：奥村愛 演目：くるみ割り人形 他	目標値	1,060
		北九州市立響ホール		実績値	1,010
5	2023 北九州国際音楽祭 海外オーケストラ招聘企画	10月15日	出演：パーヴォ・ヤルヴィ、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、ブルース・リウ	目標値	1,349
		北九州ソレイユホール		実績値	1,776
6	2023 北九州国際音楽祭 海外アーティスト招聘企画	10月14日、11月4日 12月10日	出演：小曾根真、アグイシャイ・コーエン、アレクサンダー・ガジエフ、アレクサンドル・カントロフ、スラトミール・ファン	目標値	1,620
		北九州市立響ホール		実績値	1,622
7	2023 北九州国際音楽祭 プロデュース企画	10月29日、 11月1日、23日	出演：笹沼 樹、菅沼希望、南 紫音、 篠崎史紀、双紙正哉、田中香織、 長哲也 他34名	目標値	1,017
		北九州市立響ホール、 西日本工業倶楽部		実績値	1,175

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ホスピタリティ・カスタマーサポート研修	5月16日	概要：障害者のサポート方法等 講師：(一社) 生き方のデザイン研究所 遠山昌子、障害当事者とご家族	目標値	20/回
		北九州市立響ホール		実績値	43
2	フロントスタッフ入門講座	10月25日	概要：接客マナーについて 講師：(株) スターフライヤー客室乗務員2名	目標値	40
		北九州市立響ホール		実績値	40
3	中学校合唱講習会	7月24日～25日	概要：指揮を含む合唱指導 講師：田中 安茂 対象：北九州市内の中学校合唱部	目標値	250
		北九州市立響ホール		実績値	273

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	響ホールワンコインコンサート	5月25日～ 令和6年1月31日	出演：二村裕美、宮崎由紀子、瀧本実里、五十嵐薫子、正戸里佳、大瀧拓哉、梅崎秀	目標値	1,200 (300×4回)
		北九州市立響ホール		実績値	1,739
2	地域訪問コンサート	5月24日～ 令和6年1月30日	出演：二村裕美、響ホール室内合奏団、瀧本実里、上野耕平、正戸里佳、奥村愛、梅崎秀	目標値	参加者数：825 (55×15回)
		小中学校・特別支援学校・児童養護施設・市民センター		実績値	830
3	ひびきつながるプロジェクト	10月9日、11月12日 11月19日	出演：北九州市立大学地域創生学群小林ゼミ、小山哲平、八幡図書館朗読講座の受講生 他	目標値	入場者・参加者数 400
		北九州市立響ホール、北九州市門司区内施設		実績値	242
4	2023 北九州国際音楽祭教育プログラム	11月24日	出演：篠崎史紀、倉富 礼加、倉富亮太、グレイ 理沙 演目：ドヴォルジャーク 他	目標値	参加者数 250
		北九州市立鞆ヶ谷小学校、精華幼稚園		実績値	200
5	2023 北九州国際音楽祭特別プログラム	6月25日 7月28日、29日、 10月15日	出演：篠崎史紀、双紙正哉、南紫音、岩倉万希子、長哲也、田中香織、広瀬大介 他15名	目標値	入場者 650、参加者数 128
		北九州市立響ホール、北九州市立松本清張記念館		実績値	入場者 577、参加者数 142

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
響ホールのミッションは、次のとおりである。 Ⅰ 創造と発信 ー質の高い音楽文化を創造し発信しますー Ⅱ 育成と継承 ー音楽文化の担い手を育成し、文化を継承しますー Ⅲ 地域連携による心豊かな社会の実現 ー音楽で人々をつなげ、心豊かな社会を実現しますー ミッション達成のため、3つのビジョン「トップシーンで活躍する演奏家による公演を鑑賞できる音楽堂」「鑑賞者および音楽文化の担い手を育成する音楽堂」「地域と連携し、音楽で人々をつなげ、心豊かな社会を実現する音楽堂」をあるべき将来像として示している。 ■公演事業 国内外のトップアーティストによる公演や海外オーケストラ公演、オリジナル作品の創作など、質・発信力の高い事業を実施し地域の音楽文化を牽引した。当初の予定通りに事業を進めることができた。 ■人材育成事業 地域の文化拠点として、学びの場を提供する無料の公開講座や、中学校合唱部の技術向上を目指す合唱講習会の実施など、当初の予定通りに事業を進めることができた。 ■普及啓発事業 クラシック音楽ファンの裾野拡大と地元アーティストの活用を目指した「ワンコインコンサート」、幼稚園、小・中学校、特別支援学校、児童養護施設などへのアウトリーチやインリーチ、他施設や大学との連携事業など、計画通り全事業を実施することができた。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
響ホールは、北九州市の文化芸術振興を図る中核拠点施設として「音楽を主とした公演、音楽を担う人材の育成を行うとともに、市民自らが音楽等の活動をする場を提供することにより、優れた芸術文化を市民が享受する機会の拡大及び新たな芸術文化の創造に資する」ことを目的として設置された。 ■文化的意義 北九州国際音楽祭オリジナルオーケストラ公演や地元アーティストと協働したオリジナルコンサートを創造し、地域の音楽文化を牽引、幅広く芸術文化の担い手を育成し、次世代に音楽文化を継承した。 ■社会的意義 地域の人材を活かすため、地元アーティストの起用や、市立図書館や市内大学生との連携事業を継続的に実施している。また、社会包摂に寄与するため、市民センターや児童養護施設、幼稚園、小・中学校、特別支援学校でアウトリーチを実施し、音楽ホールに来場が難しい市民に鑑賞機会の提供と鑑賞支援を行った。 ■経済的意義 市内外から集客が見込まれる事業を展開。令和5年度の来場者総数は約14,000名であった。来場者、特に市外在住者による公共交通機関や周辺飲食店、宿泊施設の利用は市内に経済効果をもたらしたと考えられる。 (公演事業来場者アンケート：北九州市外から来場した方の割合 33%) 以上のことから、文化的、社会的、経済的意義を継続して認めることができる。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

■公演事業

目標① 国内外で活躍するアーティストの公演を実施し、高い聴衆満足度を維持する

指標 聴衆満足度 95%以上維持 / 実績 99.5% (達成)

目標② 魅力あるオリジナル公演を行う

指標 年間オリジナル公演実施回数 10 公演以上 / 実績 10 公演 (達成)

目標③ 多様なジャンル・価格帯の公演を実施し、新規来場者を獲得する

指標 全体来場者に占める新規来場者の割合 30%以上 / 実績 25.7% (未達成)

目標④ 若い世代が芸術文化に触れる機会を促進する

指標 「学生招待 (小・中・高)」の申込人数 1 公演当たり 10 人 / 実績 15.5 人 (達成)

指標 「25 才以下チケット」の販売枚数 1 公演当たり 50 枚 / 実績 59 枚 (達成)

概ね目標を達成した。③の未達成については、未来館者へ効果的にリーチできる広報を検討し改善を図る。

■人材養成事業

目標① 幅広い専門性が求められるアーツスタッフの人材養成を行い、地域文化の発展に貢献する

指標 ホスピタリティ・カスタマーサポート研修、おもてなし講座参加者数 80 名以上 / 実績 83 名 (達成)

指標 上記研修アンケート「よく理解できた」「理解できた」と回答した割合 95%以上維持 / 実績 100% (達成)

指標 上記研修アンケート「今後も講座に参加してみたい」と回答した割合 85%以上 / 実績 93.4% (達成)

目標② 音楽を通じて、未来を担う子どもたちの人材育成を行う

指標 合唱講習会参加教員アンケート「生徒への指導力の向上に役立った」と回答した割合 90%以上

実績 100% (達成)

全ての指標を達成し、地域の人材育成に寄与した。参加者の満足が高いことから今後も事業を継続する。

■普及啓発事業

目標① クラシック音楽に興味・関心を持つ聴衆の育成と音楽文化の振興を図る

指標 ワンコインコンサートで本格的な公演 (リサイタルシリーズ) に行ってみたいと答えた割合 90%以上 / 実績 94.4% (達成)

指標 地域訪問コンサートでクラシック音楽に興味・関心を持ったと答えた割合 95% / 実績 100% (達成)

目標② 響ホールへの来場が難しい方へ音楽文化を届ける

指標 児童養護施設や特別支援学校などへの福祉的アウトリーチ 年 10 回以上 / 実績 8 回 (未達成)

目標③ 市内施設と連携・協働事業を実施し、音楽を介した地域交流と心豊かな社会の実現を目指す

指標 他施設や団体と連携して企画・実施する事業 (アウトリーチを除く) 年 2 回以上 / 実績 4 回 (達成)

①、③の達成により、広く音楽文化を届け、音楽への興味関心を高めたとと言える。②は受け入れ先の事情により実施回数が減少し結果として未達成ではあったが、今回の働きかけは将来的な事業実施の足掛かりになるものとする。

以上のことから、ミッションの達成に近づくことができた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■公演事業

全ての事業が計画通りに実施でき、事業期間は適切であった。入場者数の実績値が目標値を上回った公演が多く、全7事業中5事業であった。特に、「海外オーケストラ招聘企画」(事業番号5)は過去5年間と比較して来場者数が約42%増であった。(平成29年～令和4年度平均入場者数:1,253名、令和5年度入場者数:1,776名 ※令和3年度は中止のため除く)

■人材養成事業

全ての事業が計画通りに実施でき、事業期間は適切であった。市民公開講座(事業番号1、2)は平日の開催にも関わらず好評で、申込者が定員を上回り申込締切日を前倒した(定員:各40名、申込数:事業番号1は43名、2は42名)。参加者は学生、主婦をはじめ、会社員、公共施設の職員など多様であった。

■普及啓発事業

全ての事業が計画通りに実施でき、事業期間は適切であった。ワンコインコンサート(事業番号1)は、リピーターの定着、多彩なラインナップによる新規来場者の増加により入場者数が目標値を約45%上回った。(目標値:1,200名、入場者数:1,739名)

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■公演事業

全ての事業について、当初の計画通りに進めることができ、事業費は適切であった。令和5年度はチケット販売が好調で、収益率が目標を上回ったものは全7事業のうち5事業、収益率が50%以上となったものも5事業であった。令和5年度は響ホール開館30周年のため広報に力を入れ、北九州市を走行する西鉄バスのラッピングバスや音楽情報誌『ぶらあぼ』等へ出稿した。これがチケットの売上に結びついたと考えられる。

■人材養成事業

全ての事業が計画通りに実施でき、事業費は適切であった。「おもてなし講座」(事業番号2)の講師委託料は交渉の結果、予定額よりも低価格となり不要額が生じたが、結果として経費の圧縮につながった。

■普及啓発事業

全ての事業において予定通り進み、事業費は適切であった。普及啓発事業であるためアウトリーチや無料コンサートが多く収益率は低いが、経費を圧縮することで収益率の低下を防いだ。具体的な取り組みとして、公演事業の出演者にアウトリーチ(事業番号2、4)を実施してもらい、実施日程を公演日前後とすることで、公演及びアウトリーチに係る出演料や交通費、宿泊費を圧縮した。公共ホールとしての音楽文化の推進に取り組めた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

響ホールは 1993 年に開館した席数 720 席のシューボックス型ホールで、残響時間約 1.8 秒（満席時）と日本屈指の音響を誇り、北九州市内唯一の音楽専用ホールである。令和 5 年度は開館 30 周年の記念イヤーであった。

北九州国際音楽祭オリジナルオーケストラとして、北九州市出身ヴァイオリニスト篠崎史紀氏（NHK 交響楽団特別コンサートマスター）が率いる「マイスター・アールト×ライジングスターオーケストラ」（公演事業 7 北九州国際音楽祭プロデュース企画）を編成。令和 5 年度で 10 回目の開催となった。

響ホール開館 30 周年記念事業では、オリジナルオーケストラ出身メンバーや、北九州市出身アーティストからなるオリジナル祝祭合奏団を編成。未就学児から楽しめる「まるっと Enjoy！響ホールで夏休み」（普及啓発事業 5 国際音楽祭特別プログラム）、「開館 30 周年記念ガラ・コンサート」（公演事業 1）と、2 日間にわたり響ホールの 30 周年を祝うオリジナルコンサートを開催した。

その他公演事業では、0 才から家族で楽しめるファミリー向けのオリジナルコンサート 2 事業を企画・制作した（事業番号 3 0 才からの音楽会、事業番号 4 0 才からの親子で楽しむクラシックコンサート）。クラシックコンサートは未就学児入場不可のものが多いため、家族で音楽専用ホールのコンサートを楽しむ機会を創出している。この 2 事業は毎年好評で、特に「0 才からの親子で楽しむクラシックコンサート」（事業番号 4）の入場割合は例年 90%前後を維持している。令和 5 年度は公演回数を各 2 回に増やして開催し、より多くの方に来場いただいた。

人材育成事業では、北九州市の航空会社である株式会社スターフライヤーと連携し、現役客室乗務員による「おもてなし講座」（事業番号 2）を無料の市民公開講座として開催した。会場として響ホールのホワイエを利用し、音楽専用ホールを学びの場としても活用するとともに、響ホールを身近に感じてもらうきっかけとなった。

普及啓発事業では、「ワンコインコンサート」（事業番号 1）など、地域住民が気軽に鑑賞できる機会を提供したほか、地元企業や近隣大学との長期的な連携事業に取り組み、地域と共にあることを強く意識した事業展開を行った。

また、地域で次世代を担う若い人材を育成するとともに、北九州市内で芸術文化振興の土壌をつくり音楽文化を普及するため、幼稚園・小・中学校や特別支援学校、児童養護施設へのアウトリーチを行った。

「北九州国際音楽祭 特別プログラム」（事業番号 5）では、「楽しみ方聴きどころ講座」や「オーケストラレクチャー」を開催し、専門家による演目等の解説を実施。より深い鑑賞の一助とするとともに、公演を楽しむきっかけとなるよう聴衆の育成を行った。

このように、創意工夫を凝らして柔軟に対応し、各事業を通じて地域の文化拠点としての機能を大きく発揮した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

響ホールは、地域の若手演奏家の育成及び登用、並びに地方においても多様な音楽公演を享受できる機会の創出を通じて、地域の文化芸術の発展を図っている。

北九州国際音楽祭「ヴァイオリンが上手くなるひみつ」（普及啓発事業5）では、毎年、北九州市出身のNHK交響楽団特別コンサートマスター篠崎史紀氏が先生役となり、公募した6名（5歳以上未経験者除く）を生徒役として、レッスンを公開している。見学者は、地域の楽器愛好者、指導者、ヴァイオリンを習っている子どもを持つ親と兄弟が主である。篠崎氏はヨーロッパで学んでいることから、ヨーロッパの伝統に則った指導が提供でき、クラシック音楽の核心を分かりやすく伝えることができた。

また、響ホールは、市内出身のアーティストが郷土へ戻り、自ら会得したクラシック音楽にまつわる国際的な知識を地域へ伝達し、次世代を創ってゆくという循環が図れている。「マイスター・アールト×ライジングスターオーケストラ」（公演事業7）や「30周年記念ガラ・コンサート」（公演事業1）に出演した篠崎史紀氏、双紙正哉氏、南紫音氏、田中香織氏、長哲也氏、岩倉万希子氏をはじめ、市内出身者の活躍や若手演奏家の成長は、地域の実演芸術の振興の成果であると考えている。

今後も、地域の若手演奏家を育てる試みを積極的に行い、若手からベテランまで幅広い層の演奏家に活躍の場を提供し地域の実演芸術の振興に寄与していく。

さらに、地方においても多様な音楽公演を享受できる機会を提供するため、来場者アンケートなどをもとに地域のニーズを踏まえた事業を計画している。

令和5年度はブルース・リウ、アレクサンドル・カントロフ、アレクサンダー・ガジェヴ、ダニエル・オッテンザマー トリオ、小曾根真、小菅優など、国際的に人気の高いアーティストによる公演を実施し、市民にとって貴重な鑑賞機会を創出した（公演事業2、6）。北九州国際音楽祭では、例年、北九州都市圏で唯一の海外オーケストラ招聘公演を実施しており、令和5年度はパーヴォ・ヤルヴィ指揮チューリッヒ・トーンハレ交響楽団を招聘した（公演事業5）。

また、未就学児も入場可能なコンサートを求める意見に応えた「0才からの音楽会」（普及啓発事業3）および「0才からの親子で楽しむクラシックコンサート」（公演事業4）や、クラシック音楽はハードルが高いという声に応えた「ワンコインコンサート」（普及啓発事業1）を実施した。これらは、将来的な観客の育成や音楽文化の振興につながるものと考えている。

その他にも、「響ホールリサイタルシリーズ」（公演事業2）において、サクソフォン、バンドネオン、ピアノという成り立ちの異なる楽器によるアンサンブル「上野耕平×三浦一馬×山中惇史」や、「石田組」（公演事業2）によるクラシックから映画音楽、ロックまで幅広いジャンルを盛り込んだプログラムなどを実施し、クラシック音楽にとらわれない多彩な事業を展開した。

以上のように、地方においても多様且つ質の高い音楽公演を享受できる機会を提供した。

今後もこれらの取り組みを更に発展させ、地域の実演芸術の振興や文化芸術の発展に寄与していく。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

地元企業、地元の団体とのネットワーク形成、連携・協働などを図り、地域に根差したホールとなり、持続的に発展するような事業展開をしている。

■ Plan

- ・地域の産官学民連携エリアマネジメント団体「KEYAKI TERRACE YAHATA」に参画
- ・八幡の街をアートで彩るイベント「やはたアートフォレスト」に実行委員として参画（普及啓発事業3）
- ・北九州市立大学地域創生学群で持続可能なまちづくりを学んでいるゼミと連携（同3）
- ・北九州国際音楽祭（公演事業5～7）では実施にあたり、地元の団体や有識者による組織委員会及び企画検討部会を設置
- ・中学校合唱講習会（人材養成事業3）を北九州市中学校音楽教育研究会と共同開催

■ Do

- ・響ホール最寄り駅のイルミネーション点灯式など地域活性化のイベントや取り組みに参加
- ・「やはたアートフォレスト」にて市立八幡図書館と共同で「朗読コンサート」を開催
- ・北九州市立大学の小林ゼミと「音」、「音楽」でまちの魅力を伝えるワークショップおよび演奏会を共同で企画・実施
- ・北九州国際音楽祭では、商工会議所、青年会議所等の経済界、教育委員会、市役所文化担当局、音楽協会、地元学識経験者からなる組織委員会を設置し、事業全般について地域のニーズを踏まえた意見、提案を受けた。地元学識経験者による企画検討部会では、地域のニーズを踏まえた企画に関する提案を受けた。また、特別協力TOTO(株)がオブザーバーとして参画し、音楽祭が目指す地域の音楽文化振興につき共通理解を図った。
- ・中学校合唱講習会の事業実施にあたり、市立中学校の音楽担当教諭とネットワークを築いた。

■ Check

- ・「まちの小さな演奏会」については、「会場の一体感を感じることができた」「年々よくなっている」など、好評であった。（普及啓発事業3）
- ・北九州国際音楽祭については組織委員会では、効果的な予算の配分や子どもたちに向けた取り組みに対して意見を受けることができた。企画検討部会からは、本音楽祭の未来を見据えた積極的な提案を受けることができた。TOTO(株)がオブザーバーとして参画したことにより、広報宣伝に係る強化検討を合同で行うことができた。
- ・中学校合唱講習会の教員アンケートでは「（指導の際の）言葉次第でもっと（生徒の）力を引き出すことができると感じられた」「授業に活かせるヒントを頂ける貴重なセミナーでした」等の意見をいただいた。

■ Action

- ・さまざまな団体と連携し公共ホールとして地域と共に歩いていく姿勢を大切に、事業終了後も持続的に発展できる組織の構築、強化、維持する
- ・連携体制を活かして、より質の高いアウトリーチ等を実施する。
- ・北九州国際音楽祭では、若年層向け公演を実施するとともに、学生向け招待制度を見直し、親子で参加可能な制度とし利用促進を目指す。また、広報宣伝強化のため、広報開始時期を早めることができた。今後も、連携して課題に取り組んでいく。
- ・音楽堂への視察や職員向け研修を積極的に行い、職員の育成を行う